

「賀茂競馬会神事-上賀茂神社-」

(『賀茂之本地』より)



『[賀茂之本地](#)』

賀茂の競馬会(くらべうまえ)神事は、伝承では寛治 7(1093)年に宮中行事であった5月5日の競馬を上賀茂神社に移したのが始めとされています。それ以来、短い中断はありましたが、現在に至るまで毎年行われています。すでに鎌倉時代には『徒然草』に記述があり、大勢の人が集まって見物している様子がうかがえます。また、室町将軍や織田信長も見ていますし、明治には大津事件の前日にロシアのニコライ皇太子が御所で臨時に行われたこの行事を見学しています。

この競馬は「古式競馬」と呼ばれる作法で、埒(らち)と呼ばれる馬場の中を二頭駆けで勝負を決します。今の洋式競馬と違って、乗尻(のりじり)(騎手)が妨害行為をしても許されるものです。なお、現在は危険なので、妨害行為はしていません。上賀

茂神社では5月5日の端午の節句の神事としてこの競馬を行っています。

(「総合資料館だより」No.159(2009年4月1日発行)より転載)

(2016年5月2日公開)